

会 議 録

1 会議名

令和5年度第10回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

- ・直江津まちづくり構想について（五智公園整備計画について）（公開）

3 開催日時

令和5年11月14日（火）午後6時30分から午後7時56分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕（副会長）、
今川芳夫、河野健一、坂井芳美、田中 実、田村雅春、中澤武志、
増田和昭、丸山岳人、水澤敏夫、水島正人（欠席者3名）
- ・産業政策課： 笹川課長、廣川副課長
- ・都市整備課： 大堀副課長、山中係長
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、
丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山会長】

- ・挨拶

- ・会議録の確認：丸山委員、水澤委員に依頼

3の議題に入る前に、次第にはないが三の輪台いこいの広場に関して報告があるということで産業政策課が来られているので、説明をお願いしたい。

【産業政策課：笹川課長】

- ・挨拶

本日は、三の輪台いこいの広場の今後のあり方について、私ども担当課の考えを協議会の皆様へお伝えさせていただき、ご意見を頂戴したい。ご案内のとおり、三の輪台いこいの広場は、勤労者福祉施設として親しまれてきたが、近年はかなり規模を縮小し、バーベキューエリアに限定して供用している状況である。一方で、大きな駐車場があり、平日は営業の方が車を止めてお休みになられていたり、何をしに来られたのかわからない不審者のような方もおられたりし、担当課としては非常によろしくない状況ではないか、ということで課題認識を持っている。現在の方向感としては、できれば施設としての位置付けは廃止をさせていただき、一旦行政目的のない綺麗な土地、普通財産という形で整理をした上で、改めて民間事業者の皆様からのプロポーザル提案を募り、内容いかんではあるが、提案内容を踏まえて、皆さん方の一番利益になるものを選んで形にしていければ、ということを考えている。

協議会の皆様にまずはお話をさせていただきつつ、順次地元町内会や、関係される皆様のご意見、お考えを聞かせていただき、今後地元にも入らせていただきたいと考えている。雑駁であるが、現状、市の報告案を含めて、三の輪台いこいの広場に対する考えをお伝えさせていただいた。

【産業政策課：廣川副課長】

概略は課長からお話をさせていただいたが、私からは少し実務的なところも含めてお話をさせていただきたいと思う。今ほど説明をさせていただいたとおり、今日地域協議会の皆さんに、現状での市の考え方をお話させていただいたが、これから地域、町内会の皆さん、或いは関係する近隣の事業者の皆さんに説明に入らせていただこうかと思っている。そこでいろいろなお考えや、お気持ちなどをお聞きした上で、改めて最終的に市としてどうするかを整理させていただこうと思っている。地域の皆様も含めて、早くあの土地を次のステージに持っていった方がいいということで大方のご意見を得られるような状況であれば、地域協議会の皆さんに諮問という形で手続きをとらせていただく中でご議論をいただき、最終的には市議会に条例の廃止提案を出させていただこうと思

っている。概ねのスケジュール感として、現状では11月、12月ぐらいに地域に入らせていただいて、いろいろなお考え、ご意見を頂戴したいと思っており、そこで一定の目途が立つようであれば、1月の地域協議会でその旨の報告も含めてさせていただきたいと思う。そうした手続きを経た上で、3月の上越市議会定例会へ提案となるかと思うが、この辺については、これから地域の中でのご相談になる部分もあると思う。現状では、そういった時計の流れで考えているとご理解いただきたい。

【青山会長】

三の輪台いこいの広場を、どうしようと思って提案されたのか。

【産業政策課：廣川副課長】

最初に少しお話させていただいたが、三の輪台いこいの広場は昭和60年に開業し、当時は勤労者福祉施設としてスタートして、大きな帆船やスライダーなどがある中で供用していたが、人口の構成が変わってきて、当時は若い人を中心にご利用いただいていたものの、近年では、例えば、近くの保育園の園外保育の利用もなくなるなど、利用が少しずつ減ってきており、あわせて、五智公園の遊具の充実やたにはま公園にドッグランなど新しい施設が近くで開業する中で、どこまであの公園を維持していくか、というところが一つある。

もう一つは、広場としてご利用していただく分にはありがたいのだが、例えばおそらく時間の調整だろうと思うが、駐車場に長時間いて、どういったご利用なのかかわからないような方が複数台駐車されていることが常時見受けられたり、結果的にはごみの不法投棄や、センターハウスもそういった形の中で傷つけられるような事案も発生したりし、あまり風紀上よろしくない状態が発生している。

そういったところについては、このまま維持をしてもなかなかうまく好転できるような状況でもないので、広場の利用自体がそもそも少なくなってきたこと、広場として市が持っている限り、例えば草刈などの管理経費が年間90万円ぐらいかかるが、そういったものをいつまでかけ続けるのかといったところを考えたときに、地域の事業者の皆さんからも、いろいろな声を募る中で、新しい利活用に持っていった方が、広場としての有効活用ができるのではないかと。市としてはそういった管理経費というものも含めて、その事業者の方にお願ひできれば、キャッシュとしてお金が出ていくところなくなるので、市全体としては、そういった資金を、例えば福祉や他の分野にも使えるということになるので、お金の使い方としても少し考えていきたいというところもあり、

今回このような形でまずは地域にご説明させていただきたい、と考えたところである。

【青山会長】

ただいまの説明について、質問、意見等はあるか。

【増田委員】

あの広場について、今市民から寄せられている苦情にはどんなものがあるかが一つ。それから、以前、地域協議会にサウンディング調査をするという説明があったと思うが、いくつかの事業者から提案があったように聞いている。その経緯について簡単に説明していただきたい。

【産業政策課：笹川課長】

三の輪台いこいの広場に関するご要望やご利用上の苦情について、私は4月からこちらの施設の担当課長となったが、この間、そのようなお話は頂戴してない。また、この間サウンディング調査を繰り返しやらせていただいた中で、4件のサウンディングの調査結果が上がってきた。一つは倉庫としての利用、もう一つはキャンプ場としての利用、あとの二つはオートキャンプ場としての利用ということで承っている。今年に入ってから、あの土地の引き合いとして、太陽光発電パネルを置くことはできないかというような問い合わせも、サウンディングとは別に頂戴している状況である。

【増田委員】

4件問合せがあったことはわかったが、それがどうして採用にならなかったのか、その辺について説明してほしい。

【産業政策課：廣川副課長】

今まで4件サウンディングをいただいたが、先に3件のご提案があって、その後1件あったという時系列になる。その3件あったときの取扱いについては、その後にプロポーザルという形で実際の土地の利用に向けたご案内をさせていただいたが、結果的にそこでは手が挙がらなかった。もう1件のサウンディングについては、昨年度させていただいたが、今年の8月によりやく聞き取りが終わり、事業者の皆さんの事業計画の聞き取りや、確認が終わったところである。これからどうするかは、プロポーザルという手続きになるが、以前の3件も今回いただいた1件も内容としては、行政として市民の皆さんにお使いいただける広場と同時に場所を使うといった条件としては成り立たない。一団のまとまりの土地をお使いになりたい、そういった状況でないと事業者として使えないということがあったので、今回そういった制約を少し解くような形での土地の利活

用を考えたい、というところである。まとめとしては、前回の3件は実際の利活用に向けた提案につながらなかったということであり、他の1件については、今後、以前の方も含めて広く実際の利活用に向けた公募を行いたい状況にある。

【増田委員】

承知した。要するに、前の時は広場にこだわった。そこで事業者と合わなかった。今回は、そういうこだわりは捨てるということだと理解した。一言付け加えると、行政が変なこだわりを持ってやるとそういうことになってしまう。今回こだわりを捨ててやるということなので、ぜひその方向で進めてほしいと思う。広場にこだわって行政が持っていて何もいいことはない。だから民間の事業者がやりたいという人がいれば、喜んで協力して使ってもらおうという方向でやってほしいと思う。

【青山会長】

その他にあるか。

【磯田副会長】

まず勤労者福祉施設としてできた条例があり、それを外すという部分については理解できる話だと思っている。問題はその後の話の中で、次にプロポーザル提案を求める形になるのか、改めてサウンディングをやってその後プロポーザルになるのか、それはわからないが、昨今いろいろなところで話題になっている、プロポーザルの仕様をいかにどう作るかというところが一番問題になる。地域住民の思いとか、行政としてこういうプロポーザルをすべきというところが、おろそかにならないようなプロポーザル仕様書の作り方、作る経過に注力していただきたいと思っている。どういう提案の未来図があるのかということ、しっかり描いた上でのプロポーザル提案を求めるというような形にぜひしていただきたいという希望である。その仕様書は地域協議会に諮るべき問題ではないかもしれないが、できればどこかの場面でご報告なり、こういうふうを考えてるというようなことをいただいた後に、提案募集をしていただければありがたいと思う。

【産業政策課：笹川課長】

三の輪台の条例を廃止した上でのお話ということで、まだその辺は精緻にどういう仕様書で、どういうタイミングでということまでは、次のステップで、ということ捉えている。ただ、ご指摘いただいた点は非常に重要だと思う。仕様書の中での提案の採点する基準の置き方や、ご指摘のような住民の皆さんの思いの部分、一方で、市の財産

を活用する上での金銭的な面や、交流人口の拡大に寄与するのかなど、様々な採点要素があろうかと思う。この三の輪台を廃止することが皆さん方にとって大きな問題とならないのか、というところをまず確認させていただいた上で、そのあかつきにはご指摘のようなところを踏まえたプロポーザルの仕様書について、しっかりと検討、物差しとして反映していければと思っている。

【産業政策課：廣川副課長】

先ほど後段でいただいた地域協議会へのご報告については、一定程度整理ができた段階で、ご説明の機会を別途設けさせていただきたいと思っている。

【青山会長】

他になれば、この件についてはこれで終わりとする。

－ 産業政策課 退室 －

【青山会長】

議題【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

審議の参考とさせていただくため、五智公園整備計画について担当課から説明を受けることとした。本日は、都市整備課からお越しいただき、説明の後、質疑応答の時間としたい。

【青山会長】

都市整備課より説明をお願いしたい。

【都市整備課：大堀副課長】

・挨拶

今日は、五智公園の整備計画について説明に伺った。皆さんご存知のとおり、五智公園は、自然の資源が豊富な公園なので、資源を活かした形で整備計画を立てた。この後、担当係長の山中から説明させていただきたい。

【都市整備課：山中係長】

私ども都市整備課は、公園の他、都市の開発やまちづくり等を担当している課で、その一つとして公園の整備等をやらせていただいている。資料No.1の1ページ目、「都市公園整備計画策定の経緯」として、私どもが五智公園でどのようなことを行ってきたかを説明させていただき、その後、今回作った五智公園の短期整備計画について、説明させていただきたい。

・資料No.1「五智公園整備計画について」に基づき説明

【青山会長】

2 ページ目のマップは、小さくて全然見えない。次はもう少し大きくお願いしたい。
ただいまの説明について、意見等はあるか。

【田村委員】

やっと行政が動いたかという雰囲気でお聞きした。今までずっと地域活動支援事業で、五智公園を育てる会の人たちがこういうことをプレゼンしてやってきた。今度は行政が前に出るのだからいいのだけれど、何だか二番煎じのような感じがする。

【青山会長】

その他にあるか。

【水澤委員】

3 枚目の短期整備計画の黄色の憩いエリアと、緑の里山エリアには、隣接している住宅が点在しているわけだが、この辺の樹木の伐採にはどういう基準があるのか。

【都市整備課：山中係長】

公園なので、樹木があつてしかるべきであるが、自然は自然のまま保護しようということではなく、皆様と共生する公園が基本だと考えているので、基準というものはないが、一般的に皆様の民地に枝等が張り出しているようなところがあれば、樹木の剪定をする対応をとっている。

【水澤委員】

今お聞きするとそのとおりだが、どのくらいになったらどうだという基準はあるか。例えば、杉がものすごく大きくなる。木はご承知のとおり丈がだんだん大きくなるわけだから、今このように住宅が隣接点しているので、だから木が生えて当たり前だという話は承諾できない。それはもう当たり前の話なので、今のご説明だとおかしいと思う。

【都市整備課：山中係長】

その大きな木が、大風が吹いたら倒れてくるかもしれない、そういったご心配をされていると思う。先般、すべての公園の樹木点検を行って、腐っている木や、折れそうな太い枝等を探し出して、順次対応をしている。

【水澤委員】

順次とか探し出してというのは、していないところも実際にはあるということだ。風が吹けば飛んできて住宅があるので車があつたりする。基準があるのかないのか、市で

はどういう基準を持って、そういうことをやられているのかお聞きしたい。

【都市整備課：山中係長】

また樹木点検の話になるが、この木は大丈夫か大丈夫ではないかの点検の基準、目安というものを定めていて、枝や幹に腐朽がないか、キノコがないか、押してぐらぐらしないか等、総合的に勘案して、その樹木の対応を決めている。ただ、私どもも人の目で確認しており、正式な詳細調査ではないため、申し訳ないが見落としがあるかもしれない。もし、ご町内で危ないのではないかとという樹木があれば、ご相談いただきたい。

【水澤委員】

それを聞いたかった。「やっている」と言っても、私たちから見るとやっていない。今は言わないが、いろいろある。竹や、とんでもない今までないようなものが来ていたり、木がどんどん大きくなってきている。その辺を、市のほうへ言えば対応してもらえということか。

【都市整備課：山中係長】

そこで私どもでも、危険であると判断すれば、大きな木であれば、伐採という形も出てくると思う。

【水澤委員】

その辺はお任せする。だが、今のお話で市でちゃんとやっているという話だと、私たち近所にいる者は納得できないという話である。

【都市整備課：山中係長】

ご相談いただければ対応させていただきます。

【水澤委員】

承知した。

【青山会長】

その他にあるか。

【磯田副会長】

2 ページ目、第二期短期整備計画の中の三つの整備方針ということで、一つ目に、「緑化保全団体や専門家等と連携」とある。ここは五智公園を育てる会が一番の地域団体だと思っているが、ここが非常にいつも曖昧で、団体の人たちはこうしたい、こういう思いがある。でも、市はなかなかそこに沿ってくれない。地域活動支援事業でベンチを作る等の提案をされてくるが、その連携が不十分なのではないかという印象が私として

はある。これだけの整備計画ができているとすれば、そういう団体の方々に委託でも何でも出せると思う。緑化保全や自然環境の保全をやろうと言っているわけだから、そういうものは委託で出していただく方策もあるわけで、そういうことを団体や専門家の人たちと協議しているのか、したことがあるのか、委託を実際に出したことがあるのか。また、地域団体の人たちが、例えばイノシシの電柵等を設置されているが、害獣駆除的なことも含めて、専門家や都市整備課と地域団体との協議のようなことを定期的にされているのかどうか。そしてその予算執行等も、きちんと考えられているのかということが質問の第一点である。

それから二点目の二番目の『『うみがたり』や周辺歴史施設と連携し、訪問、滞在される魅力ある場』を目指すというところで、例えば黄色のエリアでは、キッチンカーの導入や社会実験のようなことをやられている姿は見ている。ここは何か考えて、何かやっているという印象があるが、真ん中の茶色のところに「民間活力導入の検討」とある。旧キャンプ場なのか今もキャンプ場なのか、今も我々が勝手に使っているのかよくわからないようなキャンプ施設で、先ほどの三の輪台のサウンディング調査でキャンプといった話もあるわけだが、そういうところと、または通年観光の中での連携のようなことを、課を超えてお話されているのかどうか。或いは民間活力導入のビジョンがあるのかどうか、それをお聞きしたいのが二つ目である。

三つ目の、老朽化した施設の安全性の問題の中で、私が気になったのは、展望台に上っていくところのトイレを下のところと集約更新と書いてある。ということは、どちらかをやめるという話か。エリアはすごく広いので、展望台に上がっていく途中のトイレは、少し綺麗に整備してもらえばまだ使えそうな気もするが、集約と書いてあるので非常に不安になった。その辺のこともお聞きできればありがたい。

【都市整備課：山中係長】

まず一つ目の、専門家としてメインの五智公園を育てる会との連携や、もう少し市が主導で委託を出してみてもどうかということについて、私どもも「五智公園を育てる会」から頑張ってもらっていて、今までやってきたところはあると感じている。活動していく中で、毎年、定期的に懇談会等を開き、互いに「こんなことをやっていきます」といった情報共有等をしている。その中で、これが市、これが育てる会といった、更に突っ込んだ議論は今までやってきていなかった。今気づきの点をいただいたので、管理、整備を含めて、少し検討すべきことではないかと思った。これが回答になっているかわから

ないが、まずお話をさせていただく。

二番目のキャンプ場、体験エリアについては、どのようなことができるのかといったところを、まだ試行錯誤、模索をしている最中。こちらの場所は公園の真ん中であって、一応、道はあるが砂利道になっており、自然豊かなところを舗装していいのか等いろいろと考えていく中で、どんな条件を出したら民間が目を向けてくれるのか、「これがいい、あれをしよう」というところは決まっていらないのが現状である。こちらについても、先ほどの三の輪台のサウンディングという話も出ていたが、今後社会の情勢的にも民間活力を活用していろいろな方法が出てくると考えている。今後もアンテナを張って、この五智公園の中でどのようなことができるのか、この計画期間の中で検討していきたいと思っている。

三番目のキッチンカーは、ご承知いただき感謝申し上げます。トイレの話は、集約とここに書いてあるとおり、2個を1個にしようという計画を作らせていただいた。現在、五智公園には、多目的トイレが遊具の脇にあるが、それ一つしかない。今後、水辺エリアと憩いエリアの接続部周辺が、里山に入っていただく方の拠点にならないかと考えており、そこに、今あるかなり古めかしいブロックを積んだようなトイレを、多目的トイレを備えたトイレに改修し、皆様が来園したときに、まず目に入るところにトイレを集約して作りたいと考えている。

【磯田副会長】

そうすると、今の話ではこの野球場のところのブロック塀のトイレがそうなるのか。

【都市整備課：山中係長】

そのとおりである。

【磯田副会長】

そうすると上の展望台へ行く途中の体験エリアの茶色のところ、やめるということか。

【都市整備課：山中係長】

体験エリアのトイレは残す。

【磯田副会長】

極端な話だが、キャンプ場の魅力や昨今のキャンプ需要の中で、時短やタイパから考えると、黄色ゾーンにそういう系統が集まってくるという考え方もある。上の茶色部分が本当に必要なのか、個人的にはもう里山ゾーンにしてしまうという手もなくはないと

思う。里山ゾーンを残すという短期整備計画なわけだが、このままいくと第三期になっても何も手がかからないというような状況になりそうな気がするので、タイムスケジュールの中でどう検討していくかということ、示されたほうがいい気がした。

【都市整備課：山中係長】

先ほど見づらいとのご指摘があり非常に恐縮だが、どこを、いつごろやりたいかというものを、地図の番号のところにR6やR5というように書かせていただいた。計画なので、本当にこのとおりにいくかはあるが、このとおりに整備を進めていきたいと思っている。

【青山会長】

その他にあるか。

【増田委員】

先ほど磯田副会長がおっしゃったとおり、今まで都市整備課として、例えば、ベンチは本来は行政が置かなければいけないものを、育てる会に「はい、いいですよ」などということをやっているのは、とんでもない話である。しかも、木製ベンチを置くならいけれど、木製に似せたプラスチック製のベンチを置くという、統一性のないことをやってくるわけである。それについての猛反省をしてもらわなければいけない。もう一つは、第一期計画実施後の課題の中に、里山エリアの認知度不足や滞在時間の向上につながっていない、自然資源の活用しきれていない等とあるが、我々の目から見たらこれに対して全然努力しているように見えない。やっていないから当然こういう結果になるだろうと私たちは見ている。だから、今まではハード的な整備のことだけ一生懸命やってきた。これからはそれと平行して、ソフト面を一生懸命やってもらわなければ困る。そのためにはどうするかといったら、言い方が悪いかもしれないが、皆さんは市民に対する周知やPRはすごく苦手である。今まで話をしていると、なかなかそういう発想を持っておられない。それは、まさに民間活力の導入ということで民間とタイアップしてやるべきだろうと思う。ここに第二期計画の策定と書いてあるが、整備方針はあるが、第二期計画の中で具体的に各エリアごとにどういう計画を練っているかということ、しっかりと示してもらわないとわからない。そここのところは利用者や市民と意見交換しながら策定していくというようにしないと、皆さんだけで策定したら限界になると思う。そうではなく、いろいろな相談をする、或いは説明して意見交換をする場を設けていただいて、その中でやっていく。先ほどから育てる会と情報共有してと言っているが、会

の現状をわかっているのか。非常にご高齢で、いつ解散してもおかしくない状況になっている。会長もそこを非常に心配されている。そういうところを、ただ会の皆さんにお願いばかりするのは無理な話なので、それに代わるどういう仕組みを作っていけばいいかということまで、ぜひ併せて考えてほしいと思う。私たちもである。それから磯田副会長がおっしゃった、いろいろなPRや整備等は、今までは地域活動支援事業としてやってきた。今年も育てる会が地域独自の予算事業で提案して実施しているが、地域独自の予算は来年度から10分の9になる。育てる会があと10分の1を、身銭を切ってやるのかというと無理である。ということは、地域独自の予算を使わない、地域独自の予算の考え方を、都市整備課がそっくり取り入れて、都市整備課として必要なものは全部予算化する。その中で、PRについて育てる会にお願いするとか、他の組織にお願いするとか、さきほどお話があったように委託という方式でやると、私たちがお手伝いするときに、持ち出しがなくて労力の提供だけで進む。そういうふうにしないと、どうやっても今までのやり方では、絶対市民の間に浸透しない。でも、資産としては、すごく素晴らしい資産である。そこは、再認識していただきたい。それからもう一つ、育てる会の皆さんは、生物を守ることに目がいつている。そうではなくて、生物を守る地域と里山として整備する地域とをしっかりと分けて、里山の整備であれば、市民の力も借りるというようなことも考えてぜひ計画してほしい。

第二計画の策定とあるが、先ほど申し上げたとおり細かいところが見えていないので、その細かいところもぜひ私達に見せていただいて、一緒に考えていく。直江津区地域協議会としては、五智公園は直江津区の重大な資産だと思っており、これからもずっと注視していくので、ぜひ地域協議会と一緒にやっていくというスタンスを、明確に出してほしいと思う。

また、今日いただいたパンフレットのマップだが、いろいろな要素がいっぱい入っていてごちゃごちゃになっている。里山を散策するにはすごくいいところだが、距離が全然合っていないし、中身の説明が全然なっていないし、これを見てこの里山を散策しようなんて気にもならない。それからそこに交通公園があるけれど、交通公園と書いただけで、これだったら子供を連れて遊びに行こうという気が起きない。マップ一つをとってもそういう工夫が必要である。そういうことにも十分気を使っていただいて、いかに市民の皆さんに理解していただき、使っていただくかということ、もう一つの柱にして作ってほしいと思う。

【青山会長】

その他にあるか。

【丸山委員】

第二期短期整備計画の整備方針の②のところを読んでいくと、多分交流人口の増加が課題になっていると思うが、今現在、何人くらい年間で来園があつて、この整備をすることで、何人にするかというところがあれば教えていただきたい。

【都市整備課：山中係長】

入場券を取っているわけではないので、正確な人数はわからないが、今私どもが把握している数として、ゴーカートの利用者数はわかる。令和4年度で約3万2,000人、令和3年度で2万9,300人であり、その前はコロナの関係で2万人台となっている。さらにゴーカート以外の目的で来られる、プラスアルファの方が来ている状況である。

また、短期整備計画の実施により、さらに何人を入れ込むかの目標は定めていない。

【丸山委員】

それはやはり定めるべきではないか。それに向かつて、それを達成するために具体的なプランが出てくると思うので、その中で、私としては入れてほしいのものがいくつかある。

一つは、五智公園はバスで行くにはすごく不便である。周辺に住宅地があつて、道路が細いということもある。車で来られる方がゴールデンウィーク等は県外ナンバーが大変多いが、交通アクセスの改善というところが必要ではないかと思う。

もう一つは、このパンフレットに書いてある八重桜、これは大変綺麗で、これを五智歴史の里会館のほうまで一帯に広げていただいて、高田城址公園に負けないぐらいの公園にしてほしいと思う。

また、せっかく交通公園というものがあるので、ゴーカートは交通教育の場でも有効に使えるのではないか。私が小学生のときは、そこへ行って横断歩道の渡り方等を勉強した。

また、先ほどから話が上がっている里山。なかなか今の子供たちは経験することが少ないので、ここで体験できる、経験できる場として、うまく使っていくことができればいいのではないか。そうすると、この3万人が4万、5万、10万。整備しがいがあると思う。

【青山会長】

他に意見を求めるがなし。

都市整備課の説明は以上で終了とする。

－ 都市整備課 退室 －

【青山会長】

ただいまの説明を受けて、意見等を求めるがなし。

それでは、この件についてはこれで終わりとする。

次に、その他について事務局より説明をお願いしたい。

【小川係長】

次回の地域協議会は、通年観光について担当課から説明に来ていただくことで調整している。どのようなことについて説明してもらいたいのか事前に担当課へ伝えたいので、何かあればお聞かせいただきたい。これまでの取組や現在の検討状況、今後のスケジュールについて等を想定しているが、それ以外に何か説明してほしいことがあればお聞かせいただきたい。

【青山会長】

通年観光について説明してほしいことはあるか。

【田村委員】

通年観光になるかわからないが、中川市長は公約の一つに、直江津に鉄道博物館を作りたいという問題を取り上げた。それと通年観光は多少関係があると思うが、どうなっているのか。どこまでいっているのか、せめて設計図ぐらい作ってあるのか、全く机の上に何も乗ってないのか、その辺についてお聞きしたい。

【青山会長】

他にあるか。

【増田委員】

通年観光を進めるにあたって、市民団体も含めて民間との連携をどう考えているか、これはぜひ聞かせてほしいと思う。

【青山会長】

他に意見を求めるがなし。

それでは、今の田村委員と増田委員の意見、2点についてお願いしたい。

事務局から他にあるか。

【小川係長】

次回の地域協議会の日程は、定例では12月12日だが、担当課から説明に来てもらう場合、議会中のためその翌週の19日も候補日として調整している。

【増田委員】

定例日と言っているが、私は前回、任期中に少なくとも8回は必要と言った。その8回をどのように来年4月までに配分していくか、その構想の中で11月は1回、12月は1回、1月も1回で、それで済むのかどうかということである。その他に、磯田副会長が今、直江津プライドで、朝市と屋台会館の話をしている。その報告も多分上がってくると思うが、それに関しても地域協議会としてどういうふうに取り組むかということも、皆さんに説明していただいて検討する時間が必要だとすると、月1回と悠長なことは言っていない。しかも1月、2月は大雪が降るかもしれないことを考えると、全体の配分をどうするかということで考えていただければいいかと思う。その上で12月19日ということになれば、それはそれで構わない。

【青山会長】

今の話について事務局から意見はあるか。

【佐藤所長】

今増田委員から一つご意見をいただいた。これから8回するのか、それとも月1なのか、会の中でお決めいただきたい。

【増田委員】

前回私がそのように発言したときに、私たちの任期も限られているから、次の人たちに渡すにあたって一定の結論を出して渡したいということは、この中で合意を得られている。その合意に基づいて、どのようにやっていくかというのは、それは事務局と会長、副会長で相談して決めていただくということになるかと思う。

【田村委員】

12日、19日にこだわらずに、曜日を変えては駄目なのか。

【佐藤所長】

それは可能である。

【田村委員】

皆さんは、どうなのか。

【磯田副会長】

前回欠席しており、増田委員が次の委員に、今までの経緯の整理と、どうしていくか

の話をしなければいけないという話と、月1では足りないという話も聞いていたが、これから8回という話は、私は初めて聞いた。何をやるか、何を検討するかということはもう少し整理をつけて、本当に8回できるかと言われると、正直難しい場面も多いかもしれないし、絞ってやっていただければとも思う。或いは、効率的な議論をしていくということも重要だと思う。ということを考えれば、通年観光の話は、次回聞かなくてもいいという話になるかもしれない。議会对応があるから19日にというのは置いておき、その次でもいい。市のホームページに、通年観光の中間発表が出ている。それを各自見てもらって、そこで質問する。または質問事前に提出しておくという手もある。12日にまず開催してはどうか。私の提案としては、そのときまでに次回以降何をやって、このように開催していきたいといったことを、事務局と正副会長で協議をさせてもらい、12日にお諮りするということではいかがか。

【増田委員】

8回の件について、概略を説明すると、行政から来て説明してもらわなければいけない点が四つある。説明してもらったあとで、私たちの中で話をするのが少なくとも1回ずつ必要だから、合計8回ということで8回である。たまたま今回は、五智公園はほとんどそれで方向が出たので、五智公園に関して改めてこの地域協議会で話し合うことはないと思うので1回は減る。今磯田副会長がおっしゃったように、通年観光もそうだが、もう一つは地域独自の予算について、今市長の議会答弁で、皆さんの意見を聞いて必要なことは処置していくと言っている。どういうスケジュールで進むかわからないが、早めに令和7年度の事業に関して意見を言えるようにしておかないと、もう決まってから意見を聞いてももう遅いとなったら困るので、私は順番としては、地域独自の予算のほうを優先したほうがいいのではないかと思う。

もう一つは議会中という話だが、夕方は議会をやっていない。一般質問はほとんど5時までに終わるように組んでいるので、必ずしも行政が来て説明するときに、課長でなくても、今回のように副課長や係長でも対応はできるはずである。だから、議会だからと簡単に言ってしまっているのかという問題もあるので、そういうことも含めて検討してほしいと思う。

【田村委員】

議会中、行政の人は答弁書も作らなければいけないので、それは多分夜やっていると思う。だからそういうことも考えなければ、いい議会にならなくなってしまう。忙しい

というのは、国会もそうだが、それと一緒にだと思はる。

【青山会長】

その他にあるか。

【田中美佳副会長】

私は先ほどの磯田副会長の発言にあったように、ある程度まとめて案を作ってから、皆さんで決めたほうが良いと思う。日にち等いろいろな話になってくると、なかなか会議の時間内でまとまらなくて、その1回が終わってしまうということになりかねないと思う。

【磯田副会長】

先ほどの増田委員の、この残された時間をどう使うかという話で、今の地域協議会の課題、地域独自の予算へのフラストレーションや課題を直江津区での地域協議会で整理して、こうあるべき、或いはこうしたい、今できなくても次の人たちにその思いを受け渡して、尽力していただくことが私は第一番だと思う。通年観光プロジェクトも、はっきり言ってしまえばもう動いていて、もうすでに中間報告が議会に出されて、それから市民意見、多分将来的にはパブリックコメントに行き着くのだが、今の案を地域協議会に出る変えるなんてことは絶対しない。「意見はお聞きしましたが」という話になるので、まず最初にやるべきことは、地域独自の予算や地域自治、地域協議会のことについて議論すべきではないかと私は思っている。であれば、12日にそれを決めて、それまでに皆さんから通年観光の、市のホームページ等をしっかり読み込んでもらい、疑問点やこれからもっと検討してほしいことを意見として挙げて、その次のときに市の人に来てもらうか、そのまま提案だけを渡すか。田中美佳副会長の賛同もあったが、12日に自治の話や協議会のあり方について話を進めて向かっていく。それから、残りの協議会の日程と、どんなことを話すかということ提案させてもらってはどうかと思う。

【佐藤所長】

地域政策課には、一度地域独自の予算の話、それから地域協議会、自治区制度の話で来てもらえないかという話をしてあるが、日程調整はしていない状況である。

【磯田副会長】

12日にいきなり行政の人に来てもらっているいろいろな言っても変わらない話なので、まずは今の委員の皆さんの思いを拾い集めてみたいと思っている。

【水島委員】

今、磯田副会長がおっしゃった意見に私は大賛成である。ただ、次回12日に話をしても、今のような状況になると思う。であれば、会長、副会長のほうで、ある程度のたたき台を作っていただいて、それを基に話し合うことは時間短縮にもなる。増田委員の8回という意見は前回出ていて、みんなある程度納得はした。磯田副会長は欠席されたが、なるべくその席で話がスムーズにできるような状況を作っていただけると非常にありがたいと思う。

【青山会長】

会議日程については、正副会長と事務局で相談したいと思う。次回は12日をお願いしたいが皆さんよいか。事務局他にあるか。

【小川係長】

令和6年4月の地域協議会委員の改正に向けて、2月中旬から3月上旬の間に、地域協議会の活動報告会と、公募説明会を開催する予定である。例年直江津区では、土曜日の午前に開催している。日程については、会場の空き状況等を踏まえ、正副会長と相談して決めさせていただきたいので、ご承知おきいただきたい。

【青山会長】

他に意見を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。